

# 八戸市の人口の推移と構造

福田 直\*

## The Transition and Composition of the Population in Hachinohe City

Naoshi FUKUDA\*

### Abstract

Since the creation of Hachinohe city in the 4th of Showa (1929), the population of Hachinohe city has increased in nearly every year. But the rate of increase has continued a downward trend, and the total population has climaxed. It depends on a natural decrease from new births and the social decrease by the movements of the younger generation. The local movement of population in Hachinohe city has been proceeding and in the center of city the population has grown more decentralized. The percentage of male births is higher than that of females, but from about 20 year old, it is reversed and the women outnumber the men. The younger population can expect a diminution due to the decreasing birth rate. Accordingly, the productive age population will be expected to drop in the future. It is clear that the aging of population has been proceeding at high speed as shown in the age composition index, the aging progress degree and aging index, etc. It can be drawn by the population pyramid.

**keywords**: the population in Hachinohe city

本論は、本学の平成9年度特別研究助成のテーマである「産業都市八戸における労働力の基盤ならびに文化・スポーツについて」の一環である。産業活動における労働力供給の源泉は、主として、その地域の人口であるが、それには労働力人口の質（高教育水準）と量とが大きな関わりを持つことになる。しかも、量が多いから良いということではなく、質的なものがそれに対応していなければならないのは当然である。そして、その質の向上は教育の力に待たなければならない。

われわれ人類が今後21世紀にかけて解決しなければならない最大の難問は、地球環境問題、食糧問題、エネルギー問題であることは異論のないところである。そして、人口問題は、これら3大難問の重大な要因であり、あるいは要因

そのものであるといってもよいだろう。だからといって、人口問題が解決されたからといってこれら難問が解決できるということでもない。

ましてや、人口問題そのものが難問なのである。たとえば、現在の世界の人口は58億人と推定され、年々1億人くらい増加しており、有限な地球に対して多すぎるのではないかと思われている。開発途上国の経済的に貧しい状況を見るにつけ、これらの国々の人口が多すぎるからであると考えがちである。しかし、人口が少なければ良いというものでもないことは、人口密度が低くても貧しい国があることから明らかである。逆に、日本の場合には、戦前には、狭い国土に多くの人口が貧しい生活をしてしたが、敗戦後は、侵略して得た領土をすべて失い、しかも人口が2倍にもなったにもかかわらず、戦前よりはるかに豊かな生活をしていることは確かである。そのためには、多数の優秀な技術力を

平成9年10月15日受理

\* 総合教育センター・教授